

平成28年度第2回中国地域発展推進会議

- 日時 : 平成28年11月16日(水) 15:10～16:30
- 場所 : 下関グランドホテル「飛翔」(山口県下関市南部町31-2)
- 出席者 : 会長 溝口島根県知事
副会長 苅田中国経済連合会会長
平井鳥取県知事、伊原木岡山県知事、湯崎広島県知事、村岡山口県知事
藤縄鳥取県商工会議所連合会会長、古瀬島根県商工会議所連合会会長、
岡崎岡山県商工会議所連合会会長、深山広島県商工会議所連合会会長、
川上山口県商工会議所連合会会長
事務局長: 島根県政策企画局長 他
- 緊急アピール
- 意見交換 :
①中国地方知事会の共同アピールについて
②インバウンド観光強化に向けた情報環境の整備について
- 報告: 5県連携によるインバウンド観光振興の取組み
※実際の順番は、意見交換①→報告→意見交換②
- 役員を選任について

○事務局長 ただ今から、平成28年度第2回中国地域発展推進会議を開会いたします。

私は、この会議の進行役を務めさせていただきます、島根県政策企画局長の新田でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

開会に当たりまして、発展推進会議会長の溝口島根県知事、副会長の苅田中国経済連合会会長、開催県であります山口県の村岡知事から御挨拶を賜りたいと存じます。

最初に、溝口会長、よろしくお願いします。

○溝口会長 本日、皆様方には、この発展推進会議に御参集いただき誠にありがとうございます。特に、平井鳥取県知事、藤縄鳥取県商工会議所連合会会長におかれましては、この度の鳥取中部の地震災害への対応で大変お忙しい中、この会議に御出席いただきありがとうございます。

初めに、鳥取県中部を震源とする地震で被災をされた皆様に対しまして、心からお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧を願う次第でございます。私ども岡山、広島、山口、鳥根の4県は、今後も可能な限りの支援をさせていただきたい考えでございます。本日は、この度の地震で鳥取県の観光に風評被害が生じていることから、事前に苅田副会長と御相談いたしまして、対外アピールを提案したいと考えているところでございます。知事会におきましても、緊急要望を国に対して出そうという提案を先程の会議でまとめたところでございます。明日上京する機会がございますので、内閣府の松本大臣に要請をする考えでございます。

さて、この会議は、中国地方各県知事と経済界の代表の方々が地域経済の活性化などについての課題や施策などについて協議することを目的に、平成20年11月に設立され、毎年、春と秋の2回開催をしております。湯崎知事の御提案もございまして、来年春の知事会議は鳥取県ではどうかということになりまして、平井知事にもお受けいただきましたので、この発展推進会議も同様に鳥取県で開催させていただければと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、今、中国地方の大きな政策課題は、地方創生・人口減少克服にどう対応していくかということでございます。各県では昨年、経済界の皆様のお意見などもよくお聞きしながら総合戦略を策定し、現在各分野で地方創生の取組が展開されております。地方創生・人口減少克服は各県単位の取組だけでなく、各県が連携し協力しながら進めることが大事でございます。財政支援でありますとか、あるいは高速道路のミッシングリンクの解消を初めとした社会インフラの整備など、国の支援が必要な分野がたくさんあるわけでございます。本日は、この会議の前の中国地方知事会におきましても、国に対するアピール案をまとめたところでございます。

また、その中でも観光の分野は、官民挙げて広域的に対応することが求められているものであります。今年5月に開催しましたこの会議では、中国地域観光推進協議会の中国地方の2つのDMO、せとうち観光推進機構、山陰インバウンド機構から今後の取組などにつきまして御紹介をいただきました。今年7月には、山陰インバウンド機構が「縁の道～山陰」とする広域観光ルートの設定を受けたところでございます。今後は、中国地域の2つの広域観光ルートの連携はもとより、当該周遊ルート以外の地域を含めた中国地方全体の連携、さらには四国、九州など他地域との連携を視野に入れた取組も推進していく必要があります。こうした取組は、行政と経済界とが県境を越えて一丸となって進めていくということが大変大事であります。本日の会議では、インバウンド観光の強化に向けた情報環境の整備などについて意見交換をさせていただければと思っているところでございます。

中国地域の発展に向け、活発な議論をいただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。御挨拶にかえさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

○事務局長 続きまして、苅田副会長、よろしくお願いいたします。

○苅田副会長 中国経済連合会の苅田でございます。

今回が初めてでございますけれども、初めてが出身地・下関ということで、非常に御縁

があるかなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

まずもって、この度の鳥取県中部地震におきまして被災された皆様、また、今なお避難生活を余儀なくされている皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧、復興をお祈りいたします。

また、本日は、皆様方大変お忙しい方ばかりでございますが、このように出席を賜り、こうした会議が開催されますことは、私どもとしても大変意義深く思っておりますし、これをお世話いただきました山口県の知事初め、開催県としての事務局の皆様の御尽力に心から厚く御礼申し上げます。

また、各県知事様におかれましては、日ごろから中経連、商工会議所等の経済活動に対して御支援、御理解を、また御指導賜っておりますことを改めて御礼申し上げたいと思っております。

先月の19日でございます、北陸、中部以西の経済6団体で西日本経済協議会というのを組織しておりますけど、毎年政府・与党に対して要望活動を行っております。地方の活性化に向けて多岐にわたる内容について要望いたしておりますが、そのうちインフラについて、当会から山陰自動車道の整備、あるいは下関北九州道路の整備といったことをお願いしたところでございます。そうした中で、2日後に今回の地震がございました。災害時における代替道路として一刻も早く整備しておく必要があると、改めて強く思った次第でございます。来月、12月1日には、今度は中国経済連合会として要望活動をする予定でございますので、あわせてこのことについてももしっかり訴えてまいりたいと思っております。

こうしたハード面の整備とともに、交流基盤を活かして広域的な災害への対応を初め、地域住民の生活維持あるいは産業、観光の広域的振興など、地域間の連携強化に取り組むことが、人口減少が進展する中で中国地域の維持、発展に不可欠ではないかと考えているところでございます。

本日は、地方創生、インバウンド観光が意見交換のテーマとなっておりますが、いずれも重要な課題でございます。中国地域の官と民が連携しながら推進していけるよう意見交換をさせていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。

○事務局長 ありがとうございました。

続きまして、村岡知事、よろしくお願いいたします。

○村岡知事 各県の知事さん、そしてまた中経連の荻田会長さんをはじめ、中国各県の経済界の代表の皆様、ようこそこの山口県下関市へお越しをいただきました。皆様の御来県を心から歓迎をいたします。

この下関市は、荻田会長さんの御出身地でもあり、また川上会頭の長府製作所の本社所在地も下関市でございます。皆様、目の前に広がっている関門海峡、ここは歴史の舞台にもなっておりまして、御案内のとおり源平の合戦や、巖流島の宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘や、あるいは幕末維新时期には長州藩と4カ国が下関戦争をした様々な歴史の舞台にもなっているところであります。明治改元から、2年後の平成30年が150年となる節目の年でありまして、観光面においても、来年の「幕末維新やまぐちデスティネーションキャンペーン」を前に、積極に取り組んでいるところでございます。

今日のテーマはインバウンド観光でありますけれども、下関市にも、最近、クルーズ船の寄港が大変増えてきております。先週の日曜日には海響マラソンがありまして、フルマラソンですけれども、1万人を超える参加者が全国、そしてまた海外からも来市されて、インバウンド観光に大きく貢献しております。因みに川上会頭の長府製作所社員が優勝され、誠におめでとうございました。インバウンド観光によりまして、地域も大変元気になるところであります。ぜひ、中国この5県で連携をして、実りのある取組ができればと思っております。

今日の会議が実りのあるものとなりますように祈念をいたしまして、歓迎の御挨拶いたします。どうぞよろしく申し上げます。

○事務局長 ありがとうございます。

それでは、ここで新会員の方を御紹介させていただきます。

先程副会長として御挨拶をいただきました、荻田中国経済連合会会長様でございます。

○荻田副会長 どうも、よろしく申し上げます。

○事務局長 島根商工会議所連合会会頭、古瀬誠様でございます。

○古瀬会頭 古瀬でございます。どうぞよろしく申し上げます。

○事務局長 ありがとうございます。

本日の会議は、当会議規則第9条の規定によりまして、会長が議長を務めることとされておりますので、これから先の議事の進行につきましては、溝口会長、よろしく申し上げます。

○溝口会長 それでは、早速議事に入ります。

最初の項目は、「鳥取県中部を震源とする地震に係る緊急アピール」であります。10月21日に発生した鳥取県中部を震源とする地震により、鳥取県では宿泊キャンセルが相次いでおりますことから、事前に苅田副会長と相談しましたところ、中国地域発展推進会議として緊急アピールを提案しようということになりまして、資料1の案文を策定した次第であります。

鳥取県では、宿泊のキャンセルが相次ぐなど観光産業への被害が出ていることから、鳥取県は安全であること、鳥取県に来てもらうことが復興につながることを広く周知したいと考えております。この案文の内容につきましては、事前に鳥取県にも確認をいただいております。

苅田副会長。

○**苅田副会長** 経済界としても、今回の地震による風評被害で観光産業を中心に多大な影響が出ていると深刻に受けとめておりますし、中国地域全体で対応していかなければならないと思っております。まずは、現在の状況を正確に発信することで、一刻も早く正常な状態を取り戻していく必要があるとの思いから、今回のアピールを溝口知事とともに提案した次第でございます。皆様、よろしく願いいたします。

○**溝口会長** 皆さん、御意見等ございますでしょうか。よろしゅうございますか。

ありがとうございます。それでは、異議なしとさせていただきましたので、アピールを採用させていただきます。

鳥取県、平井知事。

○**平井知事** 皆様に本当に感謝を申し上げたいと思います。ただ今溝口会長また苅田副会長のもと、本会におきまして緊急アピールをまとめていただきました。是非、皆様のそうしたお力におすがりをしながら、我々としても復興を果たしてまいりたいと思います。先程、苅田会長は、ここが自分の生まれたところだというお話がございました。私は、祖母に教えられているんですが、おまえは平家の末裔だと、ここは終焉の地でございます、ただ、平家が別に負け惜しみを言うわけではございませんが、平家のよかったところは一門の結束だとも言われているわけでありまして。中国地方一円で、経済界また行政ともに力を合わせてこれを乗り越えていこうというアピールでございまして、本当にありがたいなと思います。

発災当初から、例えば中国電力さんが精力的にライフラインの復旧に当たっていただき、何とその日のうちに回復をいたしました。また、例えば山陰合同銀行さんがボランティア

を送り込んでいただきまして、被災地における救援活動に当たっていただいたりもしました。今、私どものキャラバンも出まして、各地を回っております。深山会長さんとか、あるいは岡崎さんとか川上さんとか、いろいろ交通関係やあるいは産業関係等々それぞれいらっしゃるかもしれませんが、是非そうした今日のアピールも生かしていただきまして、観光面での支援もいただければありがたいと思います。鳥取で待っております。

○溝口会長 どうもありがとうございます。

この緊急アピールの内容につきましては、各県、各経済団体のホームページなどを使って広く周知をしていただければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

また、先程の中国地方知事会で広島県の湯崎知事から、鳥取県を支援するという観点から、知事会議の次の開催地は鳥取県にしてはどうかという提案がありまして、平井知事も了解されまして、知事会としては春の知事会議の開催地を鳥取県にしたいと思いますが、この発展推進会議も同様でよろしゅうございますでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）

ありがとうございます。それでは、知事会議、発展推進会議も鳥取県で開催しますが、日程は後程また調整させていただきます。

次に、意見交換に移ります。

最初のテーマ、「中国地方知事会の共同アピールについて」であります。中国地方知事会では、年2回開催する知事会議で共同アピールをまとめ国に要望しております。今回も、先程この会議の前に開催した会議におきまして、国に対して8つの共同アピールを採択しました。本日は、そのうち経済界の皆様とも関係の深い「『地方創生・人口減少克服』に向けて」について、その概要を事務局から御紹介をさせていただきます。

事務局、よろしく申し上げます。

○事務局長 お手元の資料2をお願いいたします。「『地方創生・人口減少克服』に向けて」という共同アピールでございます。現在各県では、昨年度策定いたしました県版の総合戦略に基づきまして地方創生や人口減少対策に取り組んでおります。これらの取組を進めるに当たりましては、1ページの下段の方でございますが、中国地方知事会は、国家的課題である地方創生・人口減少克服に向けて引き続き国と一丸となって全力で取組を進める決意であること、また、このためには国の支援が必要なものが多々あるということから、中国地方知事会としての要望を共同アピールとして先程取りまとめたところでございます。共同アピールは、1ページの下段から、地方への分散や子供の貧困対策など7つの項目で構成しておりますが、本日は経済界の皆様にも特に関係が深いと思われる内容を抜粋して

御説明させていただきます。

3 ページをお願いいたします。2 番、結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえるためにと題しまして、雇用の安定、子育て支援策の充実など、若者の結婚や子育てなどの希望がかなう社会づくりの推進、保育料や医療費など、子育て家庭の経済的負担の軽減策、保育サービスの量的拡充や質の改善、女性の就業継続や男性の家事・育児参画促進など、仕事と家庭の両立に向けた社会環境の整備などを要望しております。

4 ページをお願いいたします。3 番、長時間労働を是正し、多様な働き方を推進していくためにと題しまして、長時間労働の是正に向けた対策、企業が働き方改革に取り組みやすい環境の整備、生産性の向上に向けた支援、地域の実情と企業ニーズに応じた働き方改革推進のための財政支援などを要望しております。

続きまして、5 ページの下段でございます。4、人が集まり・人が定着する魅力ある地方をつくるためにと題しまして、新技術の開発支援や後継者対策の充実など、地域産業の競争力強化、無料公衆無線LANの整備支援や多様なニーズに対応した宿泊サービスの導入など、外国人観光客の受け入れ促進策などを要望しております。

8 ページをお願いいたします。7、地方みずからが創意工夫を発揮するためにと題しまして、国家戦略特区を含め地方分権改革の積極的な推進、高速道路ネットワークの整備や港湾機能の強化など、公共インフラの整備などを要望しているところでございます。以上でございます。

○溝口会長 ありがとうございます。

それでは、御意見、御質問等、経済界の方からでございますでしょうか、順に、苅田副会長から順番に御発言いただければ幸いです。

○苅田副会長 座ったままで失礼いたします。

本アピールにつきまして、経済界の立場から御意見を申し上げたいと思います。地方創生・人口減少克服に関する今回のアピールは、経済界としても思いを共有するものでございます。中国地方が持続的な発展を遂げていくために、行政と経済界が連携して取り組む必要性を改めて強く感じました。当連合会では、今年創立50周年を迎えるに当たりまして、地域創生に向けて中期ビジョンを策定いたしました。その中で、安定した就業機会を創出する産業づくり、豊かで住みやすい地域づくり、これを担う人づくりという3つの視点を提案しております。産業づくりにおいては、国際競争力の維持、強化していくために、高度技術を活用した研究開発や、成長分野での積極的な参入が重要と考えております。ま

た、交流人口の増加が期待でき、産業としても裾野が広い観光産業を、地域経済の牽引役に育成していく必要があると考えているところでございます。

次に、地域づくりに関しましては、中核となる都市が人口のダムとなるよう都市機能を強化するとともに、都市間や周辺地域との連携を促進し、中国地方が一体となった広域経済圏を形成していくことが望ましいと考えております。そのためにも、交通ネットワークやICT等の社会基盤を広域的な観点から整備していくことが必要でございます。

また、人づくりにおいては、産学官が連携して、地域が一体となってイノベーションを担う想像力豊かな人材の育成確保を目指していかなければならないと考えております。

こうした観点から、当会としては技術力の高度化を支援する措置、地域基盤の骨組みとなる交通ネットワークの整備を国に対し要望するとともに、大学、自治体とともに人材育成に関する専門部会を立ち上げ、時代の要請に応える専門人材の育成を支援したいと考えております。

行政と経済界それぞれの役割がございますけれども、今後も皆様と連携を密にしながら、地域活性化を推進する両輪となって取り組みたいと考えますので、引き続きよろしく願いいたします。以上でございます。

○溝口会長 藤縄会長、どうぞ。

○藤縄会長 先程は鳥取に対しまして大変温かい御配慮と励ましをいただき、大変ありがとうございました。厚く御礼を申し上げます。

さて、この共同アピール文、大変盛りだくさんではございますが大賛成でございます。よろしく願いをしたいと思います。

私からは、鳥取の取組についてお話しをさせていただきたいと思います。地方創生・人口減の克服につきましては、企業誘致、人の誘致、あるいは女性の活躍推進等々、平井知事中心に県が相当頑張られ、成果も随分上がっております。我々民としても、従来に増して今年度から労働生産性の向上に力を入れたいと考えております。

鳥取では地元の鳥取大学あるいは環境大学、これの卒業生の県内の就職率が極めて低い状況です。また、鳥取から県外の大学に行った卒業生が鳥取にUターンしてくるといっても、まれと言っていいぐらいの状況です。やはり給料が安いことが最大の理由ですが、鳥取の場合は、給料は安いけれども物価が安く、環境もよいですので、県が全部数値化をしたところ、生涯の収支は鳥取も東京もあんまり変わらない。境港市については、東京よりも貯蓄が多くなるという結果であり、パンフレットにして、利活用しております。これ

から人手不足が深刻化することを考えますと、やはり給料そのものを上げていかないと非常に心配であり、それを進めていきたいと思えます。

ただ、経営のバランスをとるには生産性の向上しかありませんので、会員の皆さんに、真剣に取り組んでほしいということ为先日の総会でお願いしました。これを進めるキーワードの一つは、このアピール文にもありました長時間労働の改善ということだと思いますが、現在鳥取県の1人当たりの労働生産性は、沖縄と最下位を争っている状況であり、また、最低賃金も最低ランクです。「儲かってもいないのに給料を上げるなんて何事だ。」という反発が先般総会であることを覚悟して申したのですが、結果といたしましては、非難はなく、逆でございました。やはり皆さん人手不足を非常に深刻に受けとめておられるのではなかろうかと思った次第です。

この労働生産性の問題ともう一つ従来から力を入れておりますのが、鳥取の元気のためには、「煮えたら食わあ」からの脱却が必要であるということです。つまり、人が煮てくれたら食ってやろうという気質が県民にございますので、それも直していかないと元気にはならない。この労働生産性の問題も「煮えたら食わあ」の問題も両方とも意識改革です。「煮えたら食わあ」は県民の意識改革、そして、労働生産性は経営者の意識改革、この2つを進めなくては、地方創生、鳥取の元気はないと思えますので、今後これに取り組む次第であります。以上でございます。

○溝口会長 ありがとうございます。

続きまして、古瀬会頭、お願いします。

○古瀬会頭 古瀬でございます。

共同声明文は事前に読ませていただきまして、全く異存がございませんので、私どもの地域でも一緒になって進めさせていただきたいと思えます。

その上で、2つだけあえてお願いをさせていただきたいと思えます。1つは、この声明文の中で最終のページに記載しておりますが、社会基盤の整備、地方創生ですから社会基盤というのはちょっと別の次元かもしれませんが、地方創生をいろいろ考えていくにはやっぱりどうしても社会基盤は避けて通れないと。とりわけ私ども中経連でも社会基盤委員会というのを私、今預かっているのですが、そこを今、名前がこの4月から地域づくり委員会というのに変わりました、中国管内の社会基盤をそれぞれどういう形が理想かということを議論しております。その中の道路の中で、特に、もう全国ではまれになっておりますが、ミッシングリンクというのがまだこの地域には依然として存在しております、

特に山陰道がまだ全通していませんので、全通がもちろん前提ですが、その前にまず山口県の、島根県の西の益田ぐらいから萩ぐらいまでをできるだけ急いでいただきたいと思えます。九州と繋がって初めて高速道路というのはネットワークの効果が出てくると思えますので、これを是非ひとつ知事会の皆さんも強力に推し進めていただきますよう、我々は我々で、さっき会長が申しあげましたように1日の日に直接国の方には陳情に行こうと思えますけれども、是非よろしくお願ひします。これが1点。

それからもう1点は、私どもが住んでおります山陰地方というのは、東西に300キロ以上もあります相当広大な県土の中に中核市的な、どのぐらいが中核市というか非常に難しいのですが、例えば30万ぐらいの規模の財政規模を持った人口の集積のある都市を中核市というなら、そういうのは1つありません。全国でもまれな地域でございまして、実は20万が最高で、ずっとそれ以下の中小都市が並んでいるという状態ですから、根本的に産業が集積しにくいという非常に大きな悩みを実は抱えているわけでございます。そのために社会減を食いとめる抜本的な手だてがなかなか思いつかず非常に苦労しているわけでございます。そういう中で実は我々経済界は結構ボーダーレスでありますから、できるだけ圏域の中にそういうところが作れないかという観点から、ちょうど5年ほど前から本格的に活動は始めたのですが、この辺は現場の市長さん方と認識はもちろん一致しております、ちょうど真ん中辺にある大山と中海、中海と宍道湖をぐるっと囲む隣接する5つの市が、市長会というのを兼ねて親睦会みたいに作られたものに、我々経済界が圏域の6つの会議所と14の商工会を集めまして、ブロック経済協議会というものを結成しました。それから市長会に申し入れて、具体的にこの圏域を、65万いますので、1つの都市圏として一体的に発展していけば、そこへ産業が集積することによってかなり希望が持てる状況ができてくるのではないかという思いから、具体的に協力し合ってそういう都市圏を形成するにはどうしたらいいかということを経略として熱心に議論をし始めました。昨年、実は10月に広域的な圏域の、ちょっと異例ではありましたが、具体的な総合戦略を作りまして、国の方へ官民が一緒になって持っていったわけですね。しかし、相当苦労しております、実は我々経済人はボーダーレスですから一つのマーケットとして見てみますけれども、行政はなかなかそうとはいきませんで、県境を挟んでるということで、2つと3つの市が鳥取県と島根県では分かれてるわけですね。国に持っていきましても、日本の統治機構とは外れた形で実は進めてるということがあって、なかなか受け入れられない状態がずっと続いておりましたが、再三にわたって要望し、ここ一、二年は地方創生本部

ができたということもあって、創生本部はもちろんですが、内閣府とか経済産業省あたりではかなり理解が進んできて、具体的に、例えば経済産業省なんかは会議所を通して補助金を連携事業に対していただくとか、それから新型交付金はもちろんそろそろつき始めまして、非常に希望を持ってはいますけれども、まだまだ道半ばというか、そこまで行っているのかなという状況でございます。非常に苦労しております。ただ、中国地区管内でも大小ありますけども、多分県境を越えたような、そういう地方創生を考えるに当たってはさまざまな試みが、この7ページの6番のところにちょっと実情に応じたまちづくりということで御提言をされておりますけれども、もう少しダイナミックな県境を越えたような連携も恐らく現場からは上がってくる可能性があると思いますので、そこら辺のところはひとつ一緒になって、是非御理解をいただきながら必要な支援をいただきたいと。

因みに、私どもの地域では鳥取県さんも島根県さんも大変な御理解をいただいております。政策の都度ごとに県の御当局には相談しながら必要な支援は受けておりました喜んでおりますので、あわせて申し添えさせていただきますが、こういう活動が恐らくたくさん出てくると思いますので、知事さん方におかれましてはその辺のところもひとつ御理解をいただきたいということを申し上げまして、2つとさせていただきます。どうもありがとうございます。

○溝口会長 ありがとうございます。

岡崎会長、お願いします。

○岡崎会長 岡山の岡崎でございます。

この度の中国地方知事会のアピールについては全く賛成でございまして異存ありません。

私の方からは、地方創生・人口減少克服に向けた岡山における取組について御紹介をさせていただきますいなと思っております。岡山も他県同様でございまして、非常に人手不足が深刻になってきておりました。岡山県の有効求人倍率は全国第3位という状況にあります。会議所で四半期ごとに景況調査をやってございますが、それを見ましても、人手がなくて、仕事はあるけれど受注できないというような、そういう受注機会を失うことにもなっておりますし、また、人手を獲得するために人件費が上がってきておるという状況であります。一方で、岡山県には大学、短大合わせて27校も学校がありまして、そういった学校に県外から毎年多くの新生が入ってくるわけでありまして、残念ながら卒業してもかなりの人がまた県外へ出ていくという状況で、これは非常にもったいない話でございますので、これを何とか地元へとどめることはできないかというようなことを考えて

おります。

そういった中で、大学も地域貢献ということが非常に大事なテーマになってきておりまして、地域での活動にいろんな形で参加してきております。何とか地域社会に貢献をしたいというようなことで、岡山では県内の産学官で知恵を出し合って地域の課題解決に取り組むことを目的に、今年の10月、つい先月でございますが、県と市、それから岡山大学と経済界が一緒になりまして、「おかやま地域発展協議体」、「おかやま円卓会議」というものを設立いたしました。今後につきましては、教育とか、まちづくりとか、また、医療や技術環境の4分野で地域のニーズを探っていき、人材育成に向けた戦略的な方策を考えていくことにしております。何よりも、この各団体が1つの方向を向いて議論をしていくと、また協力をしていくという、そういう場ができたことが非常に大きいと思っております。まだできたばかりでございますが、これに非常に期待をしておりまして、このことが各地域の魅力アップにつながっていけば定住促進につながるし、また、交流人口の増加にも貢献していくものと期待をしているところです。当然、定住人口の拡大が1番であります。人口減少社会の中では交流人口の拡大というものも非常に大きなテーマでございます。このためにいろんな施策をやっておりますが、最近は多くのイベントを開催しております。岡山は非常に交通の便がいい所でございますので、いろんなイベントをやって各地域から人を集めるということが容易にできる地域ではありますが、実際には、岡山に交通網を使って来られても、岡山で降りる人が非常に少のうございます。こうした方々を何とか岡山の街へ来ていただくということで、岡山市では中心部の後楽園を中心としたエリアにおいて現代アートの国際芸術祭、国際芸術交流2016を先月、今月と開催しております。ちょうど香川県が中心にされている瀬戸内国際芸術祭、今年は3度、春と夏と秋の会期に分かれて開催をされておりますが、この秋の開催と同時期に行うことで相乗効果を狙ったわけですが、先月末で約10万人の来場者があり、ホテルの稼働率も上がっていると聞いております。

また、つい先日、今月の13日の日曜日でございますが、第2回目となりますおかやまマラソンを開催いたしました。参加者が1万6,000人ございまして、昨年より1,000人増えたということで、県外からも多くのランナーがお見えになって、これも宿泊とか飲食とかで、非常に経済効果があったと思っております。

それから、先程道路の話が出ましたが、岡山はおかげさまで非常に交通の便のいい所ありますけれども、更にこの地域全体の発展ということを考える場合に、やはり道路が非

常に大事だということに変わりありません。特に岡山県では中国横断自動車道岡山米子線の完全4車線化に向けて進んでおりますが、地方にとって真に必要な道路の整備に向けて、県や市町村とともに私ども経済界としても働きかけていくことといたしております。以上でございます。

○溝口会長 ありがとうございます。

深山会頭、お願いします。

○深山会頭 広島の深山でございます。

私ども経済界としても共同アピール案は全く共通の認識でありまして、経済界としても積極的、主体的に行動を起こしていくということが肝要であろうかと思っております。

ちょっと1点だけ、取り組んでおる事例を御紹介させていただきたいんですが、商工会議所としても働き方改革、暮らし方改革を推進、浸透させていく必要があろうということで、先般、半年ぐらい前ですか、湯崎知事の立ち会いのもとに、県内の商工会議所13あるんですが、各13の会頭がイクボス宣言を行いました。マスコミを呼んで、皆さんの前でイクボスになりますということを宣言したわけではありますが、これはやはり社内外にトップみずからが宣言をすることによって、もうやらざるを得ない環境を作って自分を追い込んでいくということで、具体的にはこれからの活動になると思うんですが、できれば次の会合では皆さんがどういうふうに取り組んで、どういうふうな計画で、どこまで進捗しておるかというのをそれぞれ発表してもらおうかと思っております。その中で、やはりいろいろ話をするのに観光サービス業であるとか医療関係の従事者、特に病院なんか、やはり長時間労働を強いられておって、これをどうしていくかということで非常に悩んでおられるということで、こうしたことについて全国でも好事例があればそれを紹介して、何か考えてもらうヒントにしていきたいと思っております。

それから、この共同アピールの内容ですが、実は私ども広島県の商工会議所連合会で明日、地元選出の国会議員の先生方に、地方創生に向けた地域経済の底上げ、好循環の確立というテーマで要望に伺うことにしておりますが、ほとんど内容が、たまたまでありまして一致しておりますが、ただ、私どもは中小企業向けの税制改正の要望を入れておりまして、この中ではやはり創業より廃業の方が多くて企業数が減っていったおるんですね、私どもの地域でも。そういったことで、その大きな理由で後継者がいないというものもありますので、その事業承継がスムーズに行くための税制改正要望もあわせて行っていくということにいたしております。広島、以上でございます。

○溝口会長 ありがとうございます。

川上会頭、お願いします。

○川上会頭 山口県の川上でございます。

まずもって、本日はここ下関にお越しいただきましてありがとうございます。お陰で今日は天気が良くて、海を見て関門海峡が良く見えるということで、素晴らしい風景と言っただきありがたく思っております。

今回のアピール文の内容につきましては、私ども全面的に賛同するものでございます。1億総活躍プランを目指すための重点政策として今進めておられる働き方改革につきましても、これ、私ども経済界にとりまして大変関心の深い取組でございます、また、大きな課題の一つでもございます。人口減少という社会の中で、若者や女性の活躍の促進、長時間労働の是正といったような課題の解決にはかなりの困難が伴うとは存じますが、広範な観点から、働く人々の立場に立った検討を是非経済界としても進めていければなと思うところでございます。山口県の方は見られたと思うんですが、昨日の山口新聞の第1面にでかでかと山口県の人口140万人割れというのが載りました。1カ月ぐらい前にもやはり1面に140万人割れかというのが載りまして、2回目でございます。こんなに1面に大きくしなくてもいいのにと思ったのですが、その中身を見ますと、1985年の160万から20万人、2015年で20万人減っているというところで、これは非常に我々の経済界、地域にとってもいろんな意味で労働力の不足とか、そういった面で大きな企業発展の足かせになっていると思います。因みに山口県の有効求人倍率は1.37と、かなり高い数字でございます。今、当面の課題としましては東京一極集中ということで是正が叫ばれてるわけでございますが、地元の人材不足の解消と、これが若者にいかに地方へ定住することを進めているかということが山口県にとっても大きな課題の一つとなることと思えます。

ちょっと手前みそにはなりますが、私どもの会社、長府製作所という会社でございますが、山口県出身の優秀な人材に対して、山口県の認定をとっておりますが、奨学金を貸与する川上米男奨学会という育英資金を昭和55年に設立しております。ただし、点数がかなり上の方に貸与しますので、この方の進路を見ますと皆さん地元に戻って来ないんです。残念ながら当社にも全然入ってこないということで、この4月から奨学金を貸与された学生が地元には本社がある企業に就職した場合には一定の条件で奨学金の免除と、こういったこともこの4月からスタートしたところでございます。また、女性の仕事ということで、

私どもの会社も非常に難しい問題を抱えておりますが、女性がいかに安心して生き生きと働き続けられる職場環境ということでは、女性の社会進出をいかに促していくかということが必要だと思っております。そのためには若い世代の就労、結婚、子育ての希望を実現するため、魅力ある就業機会の創出、そういったものが不可欠だと思います。その流れを受けて、山口県商工会議所連合会では本日から、ちょうど今日からですが、3日間にわたって周南、山口、下関の県内3都市で、今後企業が取り組むべき「女性が活躍する組織の作り方」をテーマとするセミナーを開催することとしております。このセミナーは、男女とも活躍できる組織を作るためにはいかにすべきかといった内容で、企業の経営者や人事、労務の担当者を対象に開催するものでございます。経済団体や企業が行う継続的なこうした取組に当たりましては、行政からの財政的な支援を初めとしたバックアップが是非必要と思っております。そうした処置を講じていただければ幸いと思っております。

また、インフラの整備でございますが、先程いろいろお話が出ましたが、やっぱり中国地域、特に山口県は山陰自動車道が10数%ぐらいしか供用化されておらないということです。高速道路もしくは高規格道路はつながってこそ本当に価値があるんだということで、今、長門、豊田という町のこの間の工事が始まっておりますが、最終的には小月というところの高速までつなげると。そして、今度九州との連絡である下関北九州道路と、そういったものの、これはまだまだ先のことになるでしょうが、そういったことを要望しながら進めていきたいと、こういうことでございます。

それから、先程村岡知事から海響マラソンの話をいただきましてありがとうございます。私も海響マラソン、いつもあまり見に行かないんですが、今回はひょっとしたら当社の社員が優勝するかもしれないというのが山口新聞に載りまして、これは見に行かんといかんなということで見に行きましたら、途中長府地区というところで折り返し地点があるんですが、そこに見に行きますと、もうトップランナー通り過ぎた後でして、そこで30分ぐらい見たのですが、参加者は1万3,000人ぐらいですが、30分ぐらいしてもまだ人の波が押し寄せてくるとこういった感じでございます。それから今度は人工島というところに行きましたらトップグループがいたんですが、当社の社員は残念ながらその中にいないと、これはちょっと後ろの方に入ったかなと思って今度ゴールに行きますと、ゴールのところで、長府製作所さん、おたくの社員がトップで、断トツでトップですよということで、2時間24分26秒というタイムで、下関市としては初めての優勝ランナーと、これまで9回ありましたが、初めての下関出身の優勝になったということを知りました。

何か自慢めいた話になってしまって恐縮でございます。余分なことを言いました。ということで、終わらせていただきます。

○溝口会長 ありがとうございます。

経済界の皆さんからさまざまな御意見をいただきましたが、知事会の方からそれぞれもコメントがあればお願いしたいと思いますが、平井知事から順次お願いできますか。2分ぐらいで、簡単で結構です。

○平井知事 先程古瀬会頭からお話があったような県境をまたいだこと、我々としては是非やってみたいと思いますので、具体的な御提案をいただければと思います。

また、藤縄会長の方からおっしゃいました、試算であります、具体的には東京で住んでも鳥取で住んでも、学生時代からずっとやりますと1, 200万円ぐらい退職後に貯金がたまる、ほとんど変わらないという、これ正直な計算になりました。多分皆さんのところもそうだと思います。そうした意味で、地方での就業について働きかけてはと思います。

○溝口会長 伊原木知事。

○伊原木知事 私も以前、経済界で下っ端として岡崎会頭の下で頑張っていたわけであり、いずれも悩みは共通している部分が多いなということを考えながらお伺いいたしておりました。是非、共通する部分については、一緒に問題解決に取り組んでいきたいと思、います。よろしくお願、いします。

○溝口会長 湯崎知事。

○湯崎知事 やはり、経済界と我々行政との共通認識であるということは大変心強いことだと思っておりますし、力合わせて進めていかなければいけないと改めて思ったところでございます。

古瀬会頭、先程平井知事も言及されましたけれども、この中海の経済圏というような動きは、経済的に見ると非常に合理的なことだと思います。広島県でも、福山が井原、笠岡という岡山県の地域と事実上一体化した経済圏を形成しているということもございまして、こういった一塊の経済圏の振興を図るということは非常に大事だと思います。更に踏み込んで言うと、こういった問題を解決していくということ、また、今の地方創生を更に推進していくためにも、権限の移譲という地方分権を更に進めていかなければいけないという観点から、あえてちょっといろいろ御意見があることを承知で言うと、やはり道州制というものに踏み込んでいくことによってそういうことは解決されていくのかなというのが、広島県の意見でございますので、我々はまたそういうところにも取組を改めて進めたいと

思っております。

○溝口会長 村岡知事、どうぞ。

○村岡知事 今、人口流出が続いている中で地元への定着を進めていくために、政府が働き方改革の旗を振っていきまして、取組が必要と思っております。本県でも今、労働団体、使用者団体、金融機関、それから大学と行政機関が一緒になって、やまぐち働き方改革推進会議を立ち上げまして、企業を訪問し、実際助言等も行うアウトリーチ支援の体制を整備しました。また、やまぐち働き方改革支援センターを新しく立ち上げ、特に意識や実態をよく把握するため、県内企業2,000社の経営者や従業員に対するアンケート調査を実施したところであり、この意識を踏まえた実効性ある取組を推進していこうと思っております。いろいろと課題の多いテーマであると思っておりますけれども、情報もしっかりと共有しながら、効果ある取組が関係県で連携してできればよいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

○溝口会長 知事会でも、中国5県で連携をしてやらなければいけないという課題が大きくなっているという議論がございまして、我々もこれまで中国5県でいろんな事務レベルの会合とかやってきておりますし、防災もそうですし、いろんな課題が増えております。そういうことを強化していこうというのが知事会の一つの役割でございまして。例えば、隣県との連携では、道路の整備も山口県、島根県の県境地域の整備も早く進めようと、両県の国会議員の先生方も一生懸命やっておられて、国の方も少し動きそうな感じに今なっておるところでございまして。

それから、私どもが感じますのは、これはまた別の話になりますが、島根では、雇用の場を増やすと同時に女性が活躍できるよういろいろな制度、仕組み、そういうものに対する要請というのが非常に高まってきているような印象がございまして。そういう意味で経済界におかれましてはいろいろな工夫あるいは制度の改善も行っておりますけれども、中小企業になると難しいところもありまして、それをどう進めていくかということも最近の大きな課題でございまして。女性の社会進出、いろんな側面がございまして、県ですと部長クラスに女性が增えるように努力もしておりますけれども、そういうことも更に進めなければならないといったようなことがございまして。経済界におかれてもそういう点、難しい問題もございまして、御配慮をいただければと思う次第でございまして。

それから、特に中国5県の連携ということでは、観光振興につきまして、これは早くから5県で中国地域観光推進協議会などで進めてきているわけでもございまして、28年

4月から、これまでの中国知事会の海外観光誘客部会と中国地域観光推進協議会のインバウンド事業推進委員会を一緒にして、インバウンド誘致強化委員会を設置し、そこを中心に、今年の7月には香港でトッププロモーションを行うなどやっております、観光の推進につきましては経済界とよく連携してやっていきたいと思っております。

インバウンド誘致強化委員会の関係につきまして、経済界の方で何かコメントなどございますか。

○苅田副会長 実は今回取り上げましたのは、ちょっと短く申し上げますけど、他地域に比べまして、特に近畿とか九州に比べまして、要は外国のお客さんが来たときに外国のお客さんは大体Wi-Fiを使ってやっているというのがあります、そういう意味で中国地域は各所それぞれ取り組んではおられますけれど、全体的に見ると少し遅れているということもございまして、危機感を抱いているというのもございまして、このテーマを提案させていただきます。是非、今会長がおっしゃったとおりでございまして、広域的な視点に立って中国地方としてどう整備していけばいいかということで、私どもの中経連の中にもそういった組織があります。観光推進協議会の中にインバウンド事業ということで誘致強化委員会がございまして、そうしたところが中心になって整備していったらどうかと考えているところがございますので、是非そういった方向で御理解賜ればと思っております。

○溝口会長 わかりました。

それでは、議事は進行しますけども、中国地域観光推進協議会のインバウンド誘致強化委員会から活動報告をしていただければと思います。

○インバウンド誘致強化委員会（岩下委員長） 私、中国5県のインバウンド強化委員会の委員長をしております、鳥取県観光戦略課長の岩下といいます。

資料の4御覧ください。5県連携によるインバウンド観光振興の取組ということで、今年度行っております事業や来年度の予定について簡単に説明させていただきます。

1枚めくっていただきまして、1ページを御覧ください。これ、今年度の事業なんですけども、変更点といたしまして、今年度の特徴といたしまして、右側の山陰・瀬戸内連携事業ということで、山陰DMOや瀬戸内DMOで取り組みにくい瀬戸内と山陰を結ぶルートでのPRだとか売り込みなどを強化して行っております。

1枚まためくっていただきまして、2ページを御覧ください。今年のプロモーションとして、山口県におきまして中国地方インバウンドフォーラムというのを行いまして、中国、

台湾、香港、タイ、シンガポール等30社の海外からの旅行社を招聘して観光説明会、商談会、それから3ページへ行っていただいて、セミナー、それから意見交換会、それから4ページ行っていただいて、視察ツアーなど行っております。

それから、重点的などころだけ説明させていただきます。一番最後のページの15ページを御覧ください。これ、来年度の部分でございますけれども、来年度どこを重点地域としてやっていくかということにつきまして、従来から広島空港にも香港から週3往復定期便が飛んできております。それから岡山空港、米子空港でも今年度新たに週2便ずつ定期便が飛んできておりますので、そういうインフラを活用して強化して誘客をしていきたいということで、来年度香港を重点市場として向かっていきたいと考えております。

そうしまして、一番最後のインバウンドトッププロモーションの団長さんといたしましては、来年度のインバウンドフォーラム開催県の広島県知事さんをお願いしたいと考えております。以上でございます。

○溝口会長 御質問等ございますでしょうか。

湯崎知事。

○湯崎知事 先程の中経連からの情報環境の整備に関連してちょっと一言申し上げたいと思うんですけども、W i - F i の充実というのは非常に重要だと思いますし、それから、あわせて外国のお客さん向けの情報提供という意味でウェブもやはり非常に重要だと思っております。特に、W i - F i は個人の旅行客が利用するわけですけども、その個人の旅行客が情報を収集する先であるウェブ、この充実が非常に重要かと思っております。そういう中で課題の一つとして我々感じていますのは、各県とも多言語ホームページというのを展開をしていると思っておりますけれども、これ、なかなかチェックし切れてないというのが現状です。というのは、英語とかだとまだ少し読めたりするのですが、中国語とかその他の言語になるとなかなか読める人がいない。書いてあることが本当に適切なのかということが、外国人の目から見たときに、本当にこれはわかりやすいとか、適切な情報が書いてあるとか、欲しい情報が書いてあるかというのは、ブラックボックスのようになってるのが現状かなと思っております。そういう意味では2点ほどありまして、W i - F i を使うときに、これもまた各県ばらばらの認証とか地域ごとに認証がばらばらになってるので、せめて、中経連の資料にもありましたけど、九州のように1つの認証で全て使えるように進めていく必要があるんじゃないかというのが1点ですね。これは、本当は日本全国統一にすべきだと思うんですが、いきなり統一というのはなかなか難しそうなので、せめて中国

地方で、しかも全部一遍に用意ドンでできないにしても、各市町がやったりすることがありますので、でも、できるところはできるだけ統合してOne認証で全部できるというふうにはいかがかと。

もう一つは、多言語ホームページの点検、これ、また各県が例えば中国人とか雇って見てもらうっていうのもありなんですけど、また同じことを各地域がばらばらにやってももったいないので、同じ人に全部見てもらったら統一的な視点で見てもらえるというのもあるので、そういった多言語ウェブページのチェックというか、それを共同してやってはいかがかなと。それはまさに中国地域観光推進協議会のインバウンドの活動の中で、経済界も含めて進めていけるといいのではないかなと思っておりますので、少しちょっと御提案をさせていただきたいと思います。

○溝口会長 順番が前後しまして申しわけないですが、中経連の事務局の方からインバウンド観光関係につきまして御説明いただけますか。

○中経連事務局 わかりました。それでは簡単に。資料3を御覧ください。インバウンド観光の情報環境の整備、現状と必要と思われる措置でございますけれども、まず2ページ目でございますけれども、中国地方まだまだ外国人、インバウンドの観光客が少ない。その次のページにはアンケート調査でございまして、どういうところに外国人が不満を持っているかということなんですけど、一番上の旅行中困ったこと、最も困ったことの中で共通で出てまいりますのが無料公衆無線LAN環境の不足、いわゆるWi-Fiの不足でございます。それ以外にも観光案内所の整備、多言語対応が不十分ということがございますが、このWi-Fiのアクセスポイントにつきましては、5ページ目を御覧いただきますと、やっぱり中国地域は他地域に比べてもアクセスポイントが少ないという状況がございます。

次のページの6ページでございますけれども、では、ほかの地域はどのように対応してるかという先行事例ですけれども、九州地域につきましては湯崎知事の御説明がありましたように、1回認証登録をしますと域内に移動して、あるいは域外に出てもつながる、あるいは関西におきましては関西圏だけでつながる、そのかわりその外に出るとつながらないというような形をとっていると。中国地域はまだ何もやっていないという状況でございまして、このためには、次のページでございますけれども課題と取組としまして、観光情報の多言語対応とインターネットアクセスポイントの整備、外国人旅行者がストレスなくアクセスできる情報サイトの充実が必要ではないかと考えてございます。

8ページ、9ページ以降につきましては、それを少し具体的な取組を表にしてまとめて

ることをごさいますけども、やはりインターネットアクセスポイントの整備とポータルサイトの充実、認証の統一化につきましては、広域的な取組が非常に有効でございますので、官民を挙げて中国地域一帯で取り組む必要があるのではないかとということで事務局としては考えてるところでございます。以上でございます。

○溝口会長 ありがとうございます。

先にインバウンド誘致強化委員会の報告をいただきましたけども、平井知事、いかがですか。

○平井知事 今お話しになったことと広島県の湯崎知事のお話に関連してなんですが、関西エリアは共通のWi-Fi認証ができるようにちょうどなったところなんです。実はシステムを作ったばかりでありまして、これ、オープンなシステムでありますので、これにそのまま乗っかると実はそのまんま使えるということになります。それも含めて検討していただければよいのではないかなと思います。

○溝口会長 わかりました。

今の中国経済連合会と、鳥取県が委員長をやっているインバウンド誘致強化委員会、少しすり合わせをやっていただいて、中国5県でスムーズな展開ができるようにお願いいたします。

この件について御意見ございませんか。

古瀬会頭、いかがですか。

○古瀬会頭 いやいや、もう今おっしゃったとおりで、アクセスポイント、とにかくLAN、要するに接続認証を一元化するっていうのは絶対必要ですよ。もう、本当お客さんの利便性がそういうところで確保されるわけですから、どうも業者をたくさん選んで結果的にお客さんに不便になってるようですから、そういうことも含めて、今おっしゃったように強化委員会でそういうところも含めてじっくり検討していただいたらよろしいかと思えますけども。

○溝口会長 わかりました。

ほかの方、いかがでございますか。

どうぞ。

○伊原木知事 Wi-Fiは全くそのとおりだと思います。あと、湯崎知事の御意見に賛同して、訳に関しては、この訳でもいい、あの訳でもいい、でも2つ別々だと別のものだと勘違いされるということが多々あります。例えば、ここに見えている瀬戸内海にしても、

これは瀬戸内海の一部でしょうか、「セト・インランドシー」なのか「セトウチ」なのか
っていうので、我々は一緒のことだとすぐわかりますが、外国人からするとわからないと
いうことですから、手間だけじゃなくて、同じものを別の人が訳して、訳し方によって、
表記が3種類も出てくるみたいなことをいかに減らしていくか、統一して、旅行会社にも
伝えていくということで、これは、かなり真面目に委員会か何かをつくって、先にそれを
二次的に使うところとも、ここで取りまとめるけど使ってくれるかなっていうことを確認
してから、しっかり訳して、それをいろんな看板でも統一的に使うぐらいのことでやる覚
悟がすごく大事なのかなと思っています。岡山県としては、是非協力したいと思いま
すので、よろしくお願いします。

○溝口会長 ほかに御意見などございますか。

観光は人が動きますから、中国地方全体でまとまった体系で対応しなきゃいけない分野
でございますので、経済界の皆様の御指導、御鞭撻をいただきながら一緒になってやっ
てまいります。よろしくお願いします。

次に、役員を選任について議題にいたします。

規約により会長の任期は2年となっております。慣例では会長と副会長は中国地方知事
会会長と中国経済連合会会長が交互に受け持ってきましたので、従来慣例に基づき、今
後は資料5のとおり苅田中国経済連合会会長に会長を引き受けていただくのがよろしいの
ではないかと思いますが、いかがでございましょうか。（「異議なし」と呼ぶ者あり）よ
ろしゅうございますか。

異議なしということでございますので、案のとおり採決をさせていただきます。

会長の任期は2年間、中国地域発展推進会議の運営に御協力をいただくわけございま
すので、よろしくお願いします。

ここで、次期会長の苅田会長に一言御挨拶をお願いいたします。

○苅田副会長 この2年間、会長を務めていただきました溝口知事様、ありがとうございました。
また、島根県の事務局の皆様にも、改めて深く感謝いたします。

微力ではございますが、また、初めてのこの会議で次回から会長ということで、非常に
重い気持ちもいたしますけれども、皆様方の格段の御支援と御協力を賜りながら、今日も
話題になっておりますように中国地域の一体的な発展にこの会合が寄与していくよう努力
してまいりたいと思っておりますので、2年間よろしくお願いします。

○溝口会長 それでは、本日の議題は終了いたしましたので、これで閉会にいたしたいと

と思いますが、御協力誠にありがとうございました。

○事務局長 どうもありがとうございました。

それでは、これをもちまして、平成28年度第2回中国地域発展推進会議を終了させていただきます。